

生活実態調査結果案に対する意見対応表

	意見	対応等
1	子ども食堂や放課後児童クラブが相対的貧困世帯に知られている比率が全体より低く、啓発が必要だと考える。	経済的に厳しい世帯に対する、支援施策等の周知に課題があることは調査からも明らかであり、必要な支援が必要な人に届くための取組について、検討を進めます。
2	ファミリーサポートでは、相対的貧困世帯の利用が少なく、本来最もサポートが必要である世帯へのサポートになっていない印象を受ける。	
3	民生委員の利用が極端に低く、啓発と努力が必要だと感じた。	
4	必要な方に必要な援助が行き届くように願う。	
5	貧困層の方がゲーム機の所持率が高くなっている。貧困層がゲーム機が買えないのではないことを踏まえ、使い方を啓発していただきたい。	家庭の教育力が課題となっており、啓発の方法等について検討します。
6	予防接種では、相対的貧困世帯で任意接種の接種率が低く、より病気になりやすい現状がある。健康について格差が生じていることは問題である。	今後の支援のあり方について検討します。
7	自尊心が高まる教育とは何かを教員が学ぶ場を作っていただきたい。	家庭の経済状況に左右されない教育のあり方については、様々な研究が行われており、今後教育委員会と連携した取組を検討します。
8	貧困対策には息の長い取り組みが社会全体で必要であると考え。夢を持ったり社会とかかわったり、周囲の大人と積極的に交流している子供は、貧困世帯であっても勉学が高いレベルにあるように思う。ここに改善してゆくヒントを感じる。	
9	若竹学級は利用者が毎年増加し、学校での余裕教室や指導員が不足している。地域のボランティア活動に協力していただき、地域における子育て支援を行うことや、英語・音楽・体操など子どもの興味のある事を専門の方が講師として指導するといったことを考えていく必要があるのではないか。	若竹学級については利用の増加が見込まれており、人材確保等の対応に注力します。
10	資料の説明について、ページが前後することに気を取られた。資料の編集に沿った説明をお願いしたい。	分かりやすい説明となるよう、改善を図ります。